

大津市議会  
議会活動に対する  
議員による自己評価

評価項目	(1) 議案審査・調査－① 議案審査				
効果	②	1	6	1	0
		①非常に高い	②ある	③不十分	④ない
<p>専門的な見地からのチェックや委員会審査の不足、総計予算主義の観点からは議会の権能が発揮できたか疑問の残る予算審査もあったが、おおむね市民目線でのチェックが行えており、適切な審査が行えていると考え、②と判断する。</p>					
コスト負担	②	2	4	2	0
		①負担はない	②負担が軽い	③負担がある	④負担が重い
<p>おおむね、負担を感じていないため、②と判断する。</p>					
必要性	①	6	1	1	0
		①必要	②実施すべき	③実施が望ましい	④廃止してもよい
<p>議会活動として最も重要なものであり、併せて会派説明会での聞き取り、公開の場での議論としての委員会の必要性を踏まえ、①と判断する。</p>					
方法プロセス	②	2	4	2	0
		①問題ない	②検討すべき	③改善点あり	④改善が必要
<p>会派説明会での気づきの共有や説明内容の充実等については、検討の余地があると考え、②と判断する。</p>					
総合評価	B	<p>議会活動において最も重要な事柄であるが、更なる効果向上の余地が見込まれる。負担が軽く検討すべき点があるため、Bと判断する。</p>			
課題	<p>I C Tのさらなる活用といった効率面と、資料・説明の充実、議案の十分な審議、本会議・委員会での発言の在り方、会派説明での気づきの共有など手法やプロセスにかかる事柄等が、課題と考えられる。</p>				
今後の方向性	②	<p>説明内容や資料の充実・会派説明での気づきの共有等については検討すべきと考え、②と判断する。</p>			

総合評価 A十分な成果が出ている、B成果が出ているが改善の余地がある、C成果が不十分、D成果が出ていない

今後の方向性 ①現状のまま継続、②現状を基本に改善を検討、③改善点について議論が必要、④抜本的な改善が必要

評価項目	(1) 議案審査・調査－② 所管事務調査				
効果	②	1 ①非常に高い	6 ②ある	1 ③不十分	0 ④ない
市の重要な案件について直接調査することで、方向性を明らかにさせ、また議員意見を反映できたため、おおむね効果があったと考える一方、視察が行えず本市と先進地との比較や、委員会の意見に対する執行部の受け止めが不明である点もあり、②と判断する					
コスト負担	②	3 ①負担はない	4 ②負担が軽い	1 ③負担がある	0 ④負担が重い
おおむね、負担は軽いと考え、②と判断する。					
必要性	①	7 ①必要	1 ②実施すべき	0 ③実施が望ましい	0 ④廃止してもよい
重要な案件について施行までに詳細な計画を議論することは重要と考え、①と判断する					
方法プロセス	②	2 ①問題ない	3 ②検討すべき	3 ③改善点あり	0 ④改善が必要
委員間討議の不足と、その結果が見えないこと、休会中の調査・研究の不足等については検討の余地があると考え、②と判断する。					
総合評価	B	議会活動において最も重要な事柄であるが、実地調査や討論を充実させるなど更なる効果向上の余地があるため、Bと判断する。			
課題	所管事務調査のみで終わっている、結果が反映されているのか判りにくいという効果面と、ICTのさらなる活用といった効率面、先進的事例調査・視察が必要というプロセスに関する事柄等が、課題と考えられる。				
今後の方向性	②	今後ICTやDXの視点を取り入れた改善や、実地調査や討論の充実、調査結果の反映状況の確認等を検討するべきと考え、②と判断する。			

総合評価 A 十分な成果が出ている、B 成果が出ているが改善の余地がある、C 成果が不十分、D 成果が出ていない

今後の方向性 ①現状のまま継続、②現状を基本に改善を検討、③改善点について議論が必要、④抜本的な改善が必要

評価項目	(2) 議会の機能強化－① ICT の活用				
効果	②	3 ①非常に高い	5 ②ある	0 ③不十分	0 ④ない
オンライン委員会の取組は効果が高く、他にもタブレットの活用による業務効率化などについても効果を認め、②と判断する。					
コスト負担	②	0 ①負担はない	6 ②負担が軽い	2 ③負担がある	0 ④負担が重い
おおむね、負担は軽いと考え、②と判断する。					
必要性	①	4 ①必要	4 ②実施すべき	0 ③実施が望ましい	0 ④廃止してもよい
必要かつ拡充・強化すべきと考え、①と判断する。					
方法プロセス	③	1 ①問題ない	3 ②検討すべき	3 ③改善点あり	1 ④改善が必要
オンライン委員会導入の際の議員間協議不足や、新技術の導入、各自治体と共通のツールづくり等、更なる改善が可能であり、③と判断する。					
総合評価	B	議会活動において最も重要な事柄であるが、更なる効果向上の余地が見込まれる。負担が軽く改善すべき点があるため、Bと判断する。			
課題	オンライン委員会での音響や、インターネット配信の充実(残時間や字幕)、聴覚障害者がインターネットで本会議や委員会の視聴ができないこと等が、課題と考えられる。				
今後の方向性	②	今後とも委員会インターネット中継実施に向けて様々なICTの利用の検討を行うべきと考え②と判断する。			

総合評価 A 十分な成果が出ている、B 成果が出ているが改善の余地がある、C 成果が不十分、D 成果が出ていない

今後の方向性 ①現状のまま継続、②現状を基本に改善を検討、③改善点について議論が必要、④抜本的な改善が必要

評価項目	(2) 議会の機能強化－② 議事運営の見直し				
効果	②	2 ①非常に高い	4 ②ある	2 ③不十分	0 ④ない
おおむね、感染状況に応じて臨機応変かつ適切な対応ができたと考え、②と判断する。					
コスト負担	①	6 ①負担はない	1 ②負担が軽い	1 ③負担がある	0 ④負担が重い
おおむね、負担感はないと考え、①と判断する。					
必要性	②	4 ①必要	3 ②実施すべき	1 ③実施が望ましい	0 ④廃止してもよい
課題認識を共有し、議会運営のあり方を定期的に見直すことは必要と考え、②と判断する。					
方法プロセス	②	4 ①問題ない	3 ②検討すべき	1 ③改善点あり	0 ④改善が必要
おおむね、現状のまま継続すべきと考えるが、個人や少数会派の発言機会の確保や、定期的な振り返り等については検討の余地があると考え、②と判断する。					
総合評価	A	負担感がなく、必要性に応じた一定の効果がでているためAと判断する。			
課題	おおむね課題はなかった。				
今後の方向性	①	現在も一定の効果がでているため、今後とも現状の通り、年に1回の見直しと、重要事項については随時の見直しを行うべきと考え、①と判断する。			

総合評価 A 十分な成果がでている、B 成果がでているが改善の余地がある、C 成果が不十分、D 成果がでていない

今後の方向性 ①現状のまま継続、②現状を基本に改善を検討、③改善点について議論が必要、④抜本的な改善が必要

評価項目	(2) 議会の機能強化－③ 大学との連携				
効果	③	0 ①非常に高い	2 ②ある	5 ③不十分	1 ④ない
公文書についての講演はいただけたものの、コロナ禍でインターンシップの受け入れやリファレンスの利用が低調であり、効果は不十分であったと考え、③と判断する。					
コスト負担	①	5 ①負担はない	3 ②負担が軽い	0 ③負担がある	0 ④負担が重い
負担はないと考え、①と判断する。					
必要性	②	1 ①必要	4 ②実施すべき	3 ③実施が望ましい	0 ④廃止してもよい
専門的知識の活用、若い世代への議会・政治に対するの理解関心向上に有用と考え、②と判断する。					
方法プロセス	②	1 ①問題ない	4 ②検討すべき	3 ③改善点あり	0 ④改善が必要
コロナ禍に対する改善や、積極的な活用等については、検討の余地があると考え、②と判断する。					
総合評価	C	コロナ禍で効果が低調であったにも関わらず、これを踏まえた改善がなされていないためCと判断する。			
課題	今期での協定として行われる事柄が、リファレンス、インターンシップだけであったこと等が課題と考える。				
今後の方向性	③	パートナーシップ協定を振り返り、積極的に政策立案や議案審査においても助言を求めるなど、更なる取り組みの模索を検討する必要があると考え、③と判断する。			

総合評価 A十分な成果が出ている、B成果が出ているが改善の余地がある、C成果が不十分、D成果が出ていない

今後の方向性 ①現状のまま継続、②現状を基本に改善を検討、③改善点について議論が必要、④抜本的な改善が必要

評価項目	(3)政策立案・提言－①政策検討会議における政策立案				
効果	②	2 ①非常に高い	4 ②ある	2 ③不十分	0 ④ない
現在も議論が継続中のものや、長期的な視点での効果測定が必要なものもあり、一概に判断できないものの、多様な意見から政策形成ができており、議論そのものが有効と考え、②と判断する。					
コスト負担	①	5 ①負担はない	2 ②負担が軽い	1 ③負担がある	0 ④負担が重い
議会事務局の負担は別論として議員としての負担感はないため、①と判断する。					
必要性	②	4 ①必要	2 ②実施すべき	2 ③実施が望ましい	0 ④廃止してもよい
議会として合意形成を図りつつ、主体的に政策立案を行う政策検討会議は必要であると考え、②と判断する。					
方法プロセス	②	4 ①問題ない	2 ②検討すべき	2 ③改善点あり	0 ④改善が必要
おおむね問題ないが、オンライン活用の推進や、スケジュールの過密の回避等については、検討の余地があると考え、②と判断する。					
総合評価	B	必要に応じた一定の効果が出ているものの、スケジュールやオンライン活用等改善の余地があるため、Bと判断する。			
課題	提案に対する取組状況の確認をしっかりと行っていくことや、会議が開催できない状況下でも議論を進める手法を更に深めていくこと、政策検討会議で議論中のテーマに関する当該会議の委員による一般質問についての共通理解等が課題と考える。				
今後の方向性	②	現在も十分な成果が出ているが、実行テーマについては、途中での見直しを含めた精査や、事務局の体制を踏まえたテーマ決定、スケジュールの見直しについて検討の余地があると考え、②と判断する			

総合評価 A 十分な成果が出ている、B 成果が出ているが改善の余地がある、C 成果が不十分、D 成果が出ていない

今後の方向性 ①現状のまま継続、②現状を基本に改善を検討、③改善点について議論が必要、④抜本的な改善が必要

評価項目	(3) 政策立案・提言－② 決議・意見書案の提出				
効果	②	1 ①非常に高い	6 ②ある	1 ③不十分	0 ④ない
議会の意志表明として決議・意見書については一定の効果があると考える一方で、提案に対する議会内の議論がなされていない、市に直接関わらない決議案・意見書については効果が不明と考え、②と判断する。					
コスト負担	②	5 ①負担はない	2 ②負担が軽い	1 ③負担がある	0 ④負担が重い
負担は軽いと考え、②と判断する。					
必要性	①	6 ①必要	1 ②実施すべき	1 ③実施が望ましい	0 ④廃止してもよい
市の施策の関連のない意見書には検討の余地はあるが、総じて必要性は高いと判断し①と判断する。					
方法プロセス	②	3 ①問題ない	3 ②検討すべき	2 ③改善点あり	0 ④改善が必要
スケジュールがタイトであることや、意見書として提出する事柄についての考慮、賛否理由の明確化について検討の余地があり、②と判断する。					
総合評価	B	議会活動において最も重要な事柄であるが、更なる効果向上の余地が見込まれる。負担が軽く検討すべき点があるため、Bと判断する。			
課題	会派での議論や周知を行う十分な時間が取れていない、本市と直接関係のない内容や、すでに否決された内容の同内容の意見書が提出される、提出会派から賛成討論がなされる、反対意見が不明であること等が、課題と考えられる。				
今後の方向性	②	おおむね成果が出ているが、提出内容や賛否理由の明確化等について検討の余地があり、②と判断する。			

総合評価 A十分な成果が出ている、B成果が出ているが改善の余地がある、C成果が不十分、D成果が出ていない

今後の方向性 ①現状のまま継続、②現状を基本に改善を検討、③改善点について議論が必要、④抜本的な改善が必要

評価項目	(4) 広報広聴－① 議会だよりの充実				
効果	②	1 ①非常に高い	4 ②ある	3 ③不十分	0 ④ない
議会での議論のプロセスや賛否の理由の掲載が不十分との見方もあるが、親しみやすさや読みやすさが改善された点、紙媒体として多くの人の目に触れる利点を評価するし、②と判断する。					
コスト負担	②	1 ①負担はない	3 ②負担が軽い	4 ③負担がある	0 ④負担が重い
議会局職員の負担が大きく、人件費を含めたコストの見直しが必要と考え、②と判断する。					
必要性	①	6 ①必要	1 ②実施すべき	1 ③実施が望ましい	0 ④廃止してもよい
紙媒体としての改善やデジタル化を含めた検討の余地はあるが、市民に議会での議論を知らせる情報発信ツールとしての必要性が高いため、①と判断する。					
方法プロセス	②	2 ①問題ない	2 ②検討すべき	3 ③改善点あり	1 ④改善が必要
QRコードの活用などによる情報発信の充実が図れたが、継続した改善やさらなるメディアミックス推進の必要性、議会局職員の長時間残業が常態化していること等を考慮し、②と判断する。					
総合評価	B	情報発信ツールとしての必要性を踏まえ、一定の改善がされたものの、さらなる充実が必要なため、Bと判断する。			
課題	市民、とりわけ若者や議会への関心が低い人に、手に取ってもらう工夫、議員の関与と議会局職員負担の見直し、請願や意見書に対する賛否の理由掲載による市民への十分な情報提供について検討が必要なこと等が課題と考える。				
今後の方向性	②	市民の議会への関心惹起を図るために、双方向コミュニケーションを図りながら誰にとっても読みやすいツールとして活用できるよう、議員の関わりや議会局職員の負担軽減を含め、引き続き広報広聴委員会での議論が必要と考え②と判断する			

総合評価 A 十分な成果が出ている、B 成果が出ているが改善の余地がある、C 成果が不十分、D 成果が出ていない

今後の方向性 ①現状のまま継続、②現状を基本に改善を検討、③改善点について議論が必要、④抜本的な改善が必要

評価項目	(4)広報広聴-②広報広聴ビジョン策定に向けた取組				
効果	②	1 ①非常に高い	5 ②ある	1 ③不十分	1 ④ない
ビジョンに基づく取組みがスタートしたばかりで実質的な効果は現時点では測定できないものの、ビジョンを策定した意義は大きいため②と判断する。					
コスト負担	③	1 ①負担はない	2 ②負担が軽い	5 ③負担がある	0 ④負担が重い
議会局職員の負担が大きいため③と判断する。					
必要性	②	2 ①必要	3 ②実施すべき	3 ③実施が望ましい	0 ④廃止してもよい
市民に開かれた議会を目指し、市民の関心を高めるために取り組む必要があるため、②と判断する。					
方法プロセス	②	4 ①問題ない	3 ②検討すべき	1 ③改善点あり	0 ④改善が必要
アドバイザーの参加、市民アンケートによる現状把握など、効率的かつ効果的な方法を用いながら広報広聴委員会での議論を経て策定しておりプロセスに問題はないと考えるが、実行にあたっての負担が大きいためは随時見直しを検討する必要があることから、②と判断する。					
総合評価	A	議会局職員の負担が大きいが課題ではあるが、策定のプロセスに問題なく、負担に見合った効果が期待できるため、Aと判断する。			
課題	ビジョン実現に向けたアクションプラン実施への負担感や、いかに効果・実証性を担保するか等が課題と考える。				
今後の方向性	①	今後、実施に当たって顕在化する課題に対処する必要があるが、年度計画に基づき実現するべきと考え、①と判断する。			

総合評価 A 十分な成果が出ている、B 成果が出ているが改善の余地がある、C 成果が不十分、D 成果が出ていない

今後の方向性 ①現状のまま継続、②現状を基本に改善を検討、③改善点について議論が必要、④抜本的な改善が必要

評価項目	(4) 広報広聴－③ 市民意見の聴取				
効果	②	0	5	3	0
		①非常に高い	②ある	③不十分	④ない
<p>コロナ禍で幾つかの意見交換会が中止となったが、オンライン活用により実施できた意見交換により新しい気づきがあった。特に学生との意見交換は貴重な体験であったとの意見があったため、②と判断する。</p>					
コスト負担	②	5	1	2	0
		①負担はない	②負担が軽い	③負担がある	④負担が重い
<p>議員としての負担感はないが意見交換会にかかるコストはゼロではないため、②と判断する</p>					
必要性	②	3	3	2	0
		①必要	②実施すべき	③実施が望ましい	④廃止してもよい
<p>開かれた議会の実現や、政策立案に資する点、相手方の属する分野・層の状況の理解に有効である点を踏まえ、②と判断する。</p>					
方法プロセス	②	2	4	2	0
		①問題ない	②検討すべき	③改善点あり	④改善が必要
<p>オンラインのさらなる活用や、ホームページでの結果公表等について検討の余地があると考え、②と判断する。</p>					
総合評価	B	<p>オンライン活用や学生との意見交換などにより新たな効果が出ているが、更なる改善の余地があると考え、Bと判断する。</p>			
課題	<p>相手方となる団体の固定化を招かないよう、より多くの団体や、広く市民の声を聴く機会を確保すること等が課題と考える。また、市政課題は、議員が直接市民意見を収集すべきかどうか、改めて検討する余地がある。</p>				
今後の方向性	③	<p>多様な主体との意見交換が可能となるよう、手法の検討や市民意見の聴取の方法を含めた議論が必要であるため、③と判断する。</p>			

総合評価 A十分な成果が出ている、B成果が出ているが改善の余地がある、C成果が不十分、D成果が出ていない

今後の方向性 ①現状のまま継続、②現状を基本に改善を検討、③改善点について議論が必要、④抜本的な改善が必要